

超越に貫かれた人間——宗教哲学の基礎づけ(長崎純真レクチャーズ第6回)

K・リーゼンフーバー著

創文社刊 2004年

---



---

【カバー紹介文より】

人間は不可避免的に問う存在である。自分自身の存在、根拠、意義を問うとともに世界の真理、意義、幸福をも探求する。人間の問いそのもののうちには、無制約的なもの、すなわち、超越への開きが含まれているのである。

知ることはなぜ可能か。人間はいったい何を経験するのか。この追究をとおして宗教性が人間の本質に深く根づいていることを確認し、人間と超越との関係を、超越に関わられ貫かれる人間という受動的観点から解明、さらに宗教的行為の基本構造へと考察を進め人間の存在と使命を浮き彫りにする。

西洋中世哲学研究者として知られる著者が、長年の研究と思索の間に親しんだ哲学者、神学者、神秘思想家との対話にもとづき、磨かれた言語で宗教哲学の根本的考え方を明解にとく講演。

---